



事故防止・災害対応

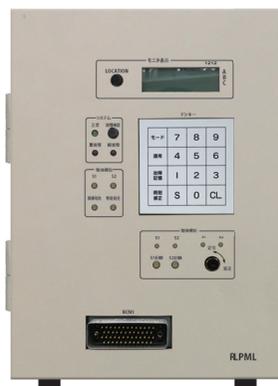
ライダーセンサで2次元に検知。フェールセーフによる高度な安全性を常に提供。

現在、広く普及している光式障検が「線」であるのに対し、2Dライダーセンサは「面」で見張るため、小さな物体まで捉えることが可能です。悪天候等で検知ができない場合はシステムを停止し、その状態を出力するフェールセーフ機能を搭載しています。

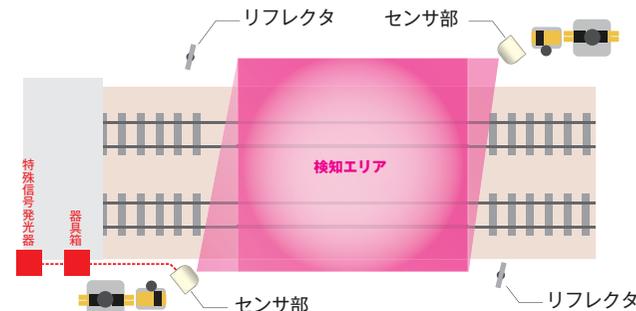
2D センサ



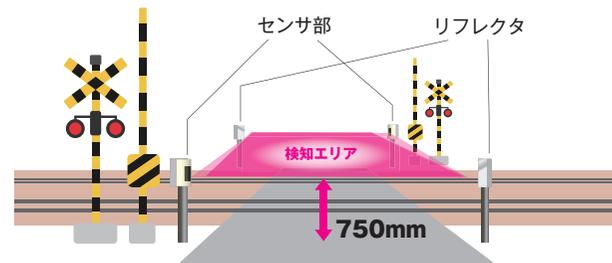
処理部



平面図



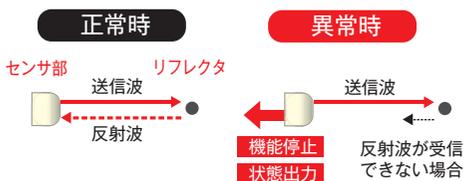
俯瞰図



主な特徴

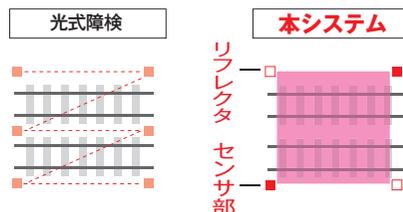
高度な安全性を実現

極端な悪天候等や器具の損壊などにより、リフレクタからの反射波を検知できない場合、システムは自動的に機能停止し、その状態を出力して知らせます。フェールセーフ機能を搭載し安全な運用を実現します。



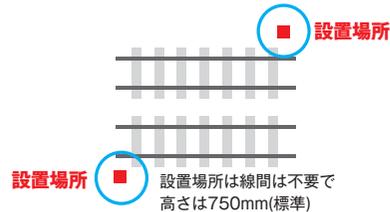
高性能な検知性能

従来の光式障検では「線」でしか検出できなかった障害物を「面」でとらえます。踏切領域内の全長0.5m以上の物体を捉えられます。



作業容易性、低コスト

線間にセンサを設置する必要がなく、低い位置(標準はレール面から750mm)に取り付けるため、運行時間帯でも容易に機器を設置・メンテナンスすることが可能。そのため低コストでの導入・運用が可能です。



人体への安全性

レーザー光源はClass1に分類される905nmを用いており、人体への影響はありません。踏切を渡る際に、通行する人がセンサ部を直接見ても安全な仕様となっています。

